



国際通貨研究所メールマガジン（第 27 号 2014/6/10 発行）



Institute for International Monetary Affairs (IIMA)



<http://www.iima.or.jp/>

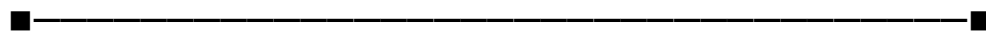


※本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから→ <http://get.adobe.com/jp/reader/>



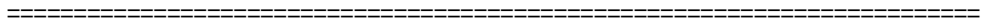
1. 理事長 行天豊雄のコラム 『ユーロの難問』

5 月末に行なわれた欧州議会の選挙では案じられていた通り多くの国で反統合、反移民、反緊縮を叫ぶ大衆迎合的、ナショナリズム指向の政党が既存政党に対して票を伸ばした…

（株式会社マネーパートナーズへの寄稿）

（全文はこちらから）

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2014/20140610gyoten.pdf>



2. 特別研究員 小林敏雄のコラム 『所得格差を考える』

所得格差には、少なくとも二つの問題がある。一つは先進国と途上国との間の所得格差であり、いわゆる南北問題といわれたものである。二つ目は、各国における所得格差である…

（IIMA メールマガジンへの寄稿）

（全文はこちらから）

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2014/20140610kobayashi.pdf>

■ 購買力平価グラフの更新

<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>

（ドル円）（ユーロドル）（ユーロ円）を掲載しています。

■ 今月の新着レポート

1. 「Low productivity in Mexico, why?: Need for Its Improvement in SMEs」

上席研究員 森川 央

「メキシコの生産性上昇率はなぜ低いのか? ~求められる小規模企業の底上げ~」
の英語版

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_25_e.pdf

2. 「Brazil' s Economy at a Critical Juncture : Economic Policies of Next
President Keenly Watched」 上席研究員 森川 央

「転機を迎えるブラジル経済 ~問われる次期大統領の経済政策~」の英語版

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_21_e.pdf

3. 「中国とインドが狙うアフガニスタンの鉱物資源」 主任研究員 福田幸正

中国とインドがアフガニスタンの鉱物資源開発投資に踏み切ったことによって、アフガニスタンの安定が二大新興国の切実な共通の利害となった。そのことがアフガニスタンと広域西アジアに及ぼす可能性を考察。

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2014/258_j.pdf

4. 「金融資本市場の変動性とグローバルインバランス」 研究員 井上 裕介

本稿では、金融資本市場におけるボラティリティの性質を理解することで金融ショックのスピルオーバー効果をコントロールできないかという視点から、当研究所が開発したボラティリティ指数とグローバルインバランス（マクロ経済における不均衡）の関係性について過去のデータを用いて分析を行った。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_24_j.pdf

5. 「ニューノーマル移行後の金融政策」 上席研究員 山中 崇

グローバル金融危機は既存の金融政策の枠組みを揺るがした。これをうけて、世界経済が新たな標準に移行した後の金融政策の在り方に関する議論が起きている。本稿では、議論のたたき台として IMF が公表した討議資料の主要な論点を紹介する。

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2014/257_j.pdf

■今週のキーワード

★グローバルインバランス

★政策反応関数

レポートに関連する専門用語の参照はこちらから

<http://www.iima.or.jp/Docs/keyword/keyword.pdf>

■ 今月の IIMA

新緑かおる 6 月。2014 年も早、折り返し地点に来ました。

内外の経済は、緩やかな回復基調にあるようですが、引き続き新興国経済の動向、ユーロ周縁国の債務問題、米国経済の回復ペースなどに目配せが必要です。

これらを念頭に置いて、上期は、欧州、中南米、南アジア、アフリカといった地域のカントリー調査に取り組んでいます。アジア債券市場関係の業務の受託も一件目鼻がつかしました。新年度は比較的順調な滑り出しです。6 月には米国の大学生のインターンを受け入れることもトピックです。

3 月 19 日に開催致しました国際金融シンポジウム「真の夜明けに向けて～世界経済の成長のための政策と課題」は多数の方にご来場頂きましたが、オケージョナル・ペーパー作成作業も最終段階に入ってきており、今月中に完成する目途が付きそうです。ホームページにも掲載致しますのでもう少しお待ち下さい。

【バックナンバー】

<http://www.iima.or.jp/maim Magazine.html>

【次号】

2014 年 7 月 10 日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

◇発行◇*****

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

***** Copyright (C) IIMA All Rights Reserved. *****